



中立港避難貨物整理問題(1)

田崎, 慎治

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 18(4):563-582

(Issue Date)

1915-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052351>



中立港避難貨物整理問題 (其二)

神戸高等商業學校教授

商學士 田 崎 愼 治

本篇ノ目的ハ航海中英獨開戦ノ報ニ接シ中立港ニ避難シ積荷ヲ陸揚シタル獨逸汽船ニ關シ荷主船主及積荷ノ保險者ノ間ノ相互ノ關係ヲ明ニシ以テ當業者ノ參考ニ供セントスルニアリ研究ノ要點ハ之次ノ四節ニ分ツコトヲ得ベシ。

第一節 本邦ノ荷送人ト獨船トノ間ノ運送契約ハ拿捕ヲ免ガル、目的ヲ以テ行ハレタル中立港ヘノ入航ニ因リ如何ナル影響ヲ受クベキヤ。

第二節 獨船ガ避難港ニ入航シタルニ因リ共同海損成立シ得ベキヤ。

第三節 積荷ノ普通ノ航海危險(Marine risks)ノミナ擔保セル保險者ハ其ノ避難港ノ諸費用諸損害ヲ填補スベキヤ。

第四節 積荷ノ戰時危險(War risks)ノミナ擔保セル保險者ノ責任如何。

第一節 本邦ノ荷送人ト獨船トノ間ノ運送契約ハ避難港入航ニ因リ如何ナル影響ヲ受クベキヤ

第一、契約ノ解釋ニ付適用スベキ約款及法律

先ヅ船荷證券ノ約款ヲ適用シ次ニ船舶所屬國ノ法律ヲ適用スベシ何トナレバ船荷證券ニ其ノ本國法ニ據リ當事者間ノ契約ヲ解釋スベキコトノ約款アリ。

第二運送人(獨船)ハ運送繼續ノ義務アリヤニ付キテハ船券ニ約款ヲ缺ケリ、唯中途避難スルトキハ本船ノ都合ニ依リテ他船ニ積移シ積送スルコトノ自由ヲ留保セルモ(H. A. Line, N. G. L. 各第三條及ビ Rickmers 第二條)此等ノ約款ハ代船ノ自由ヲ認メタルニ過ギズ避難港ヨリ繼續航送ノ義務ノ有無ハ之ヲ其各本國法(即獨商法)ニ準據シテ判定スルノ外ナシ。

獨商法第六四一條ニヨレバ本問題ノ場合ノ如ク一般船(general ship)ニ搭載サレタル貨品ノ運送契約ハ拿捕ヲ虞レテ避難セル際ハ契約當事者ハ何レモ相手方ニ向テ契約解除ノ意思表示ヲ爲スノ自由ヲ有セリ而シテ拿捕ノ懸念ナル障礙ノ發生後直ニ解除スルコトヲ得ベシ此ノ直ニ(sogleich=immediately)ノ意味ハ障礙ガ三箇月五箇月等ノ長サ除カレザル時マデ待ツコトヲ要セズトノ意味ニ解釋スベキモノナリ。

契約ガ一方ノ意思表示ニ依リテ解除セラレ得ル場合ニ於テ其意思表示ハ行爲ニ依リテ推定セラル、コトモアリ得ベシ如何ナル行爲ガ解除ノ意思表示ニ當ルヤハ事實問題ニ屬シ茲ニ概言シ難キモ例ヘバ積出人カ本船ヨリ積荷ヲ受取り更

ニ原仕向港又ハ他港ニ積送シタル場合ノ如キハ解除ト見ラルベキカ又運送人自身ガ任意ニ他船ヲ以テ目的地ニ送達シタル場合ノ如キハ運送ヲ履行シタルモノト見ラルベキカ此等ハ事實ヲ詳細ニ調査シタル上ニアラザレバ判斷スルコト能ハザルベシ。

第三、契約ヲ解除シタル場合ノ運送賃ニ關シテ參考スベキハ漢米會社及北獨ロイド會社ノ船券各第十八條(リクマース船券本文及第十八條ニ「既ニ支拂ハレタル運賃ハ船舶或ハ貨物喪失スルモ返還セラル、コト無シ」トノ規定アリ)斯ル規定アル場合ハ避難港ニテ契約解除セラレタル時ト雖モ既拂運賃ノ返還ヲ請求スルコト能ハザルベシ。

未拂運賃ニ對シテハ左ノ獨商ノ規定ニ基キテ距離運賃ヲ支拂フベシ(但契約ガ避難港ニテ解除セラレタル場合)即獨商六三四條第五項及第六項同六四一條第一項第一號ニ規定アリ。

猶距離運賃計算ノ方法ハ獨商六三〇條及六三一條ニ規定アリ(Austrian Lloyd S. N. Co. ノ船券ニハ既拂運賃無返還ノ規定無シ)。

既拂運賃無返還ノ船券ノ約款ノ效力ニ付キ本邦ニテハ疑ヲ懷ケル人アルガ如シ(日商三三六第一項及六一九)獨商六一七ニ曰ク

「不意ノ事變ニテ喪失シタル積荷ニ對シテハ運賃ヲ負擔スルコト無シ當事者間ニ反對ノ合意ナキトキハ既收運賃ヲ返還スルコトヲ要ス。

〔本條ノ規定ハ全部備船ノ場合或ハ部分備船ノ場合或ハ特定部分ノ備船ノ場合ニモ之ヲ適用ス斯ル場合ニ於テ若シ運賃ガ「ラムプ、サム」ニテ約束サレタルトキハ喪失シタル部分ノ積荷ニ對シテハ運賃ノ控除ヲ請求スルコトヲ得ベシ〕下。

此ノ獨商六一七第一項ノ中段ノ反對ノ合意ナキトキハト云フコトハ船券ニ既收運賃無返還ノ明約ナキトキハト云フコトナリ由是觀之獨商ハ既收運賃無返還ノ規定ヲ以テ充分ニ效力アルモノト認メラルコト明白ナリ。

第四避難港ニ於ケル諸費用負擔者

積荷ノ船内人夫賃ハ船主ノ負擔ニ屬シ舢船賃倉敷料等ハ積荷主ノ負擔タルベシ尤モ共同海損ノ原則ニ基キテ計算サル、場合ハ此ノ限リニアラザルベシ(獨商六三九同五九三同六二一ヲ參照スベシ)。

獨商第六三九條

運送契約カ第六二八條乃至第六三四條ノ規定ニ基キテ解除セラレタル時ハ船舶ヨリ積卸ス費用 (Kosten der Ausladung = expenses of unloading 所謂船内夫賃) ハ船主之レヲ負擔ス其他ノ總テノ陸揚費用 (Umschungskosten = expenses of discharge) ハ備船者ノ負擔トス。但積荷一方ノミノ事故ノ爲メニ陸揚セラル、モノナルトキハ陸揚費用全部備船者ノ負擔ニ屬スベシ。第六三六條ノ場合ニ於テ積荷ノ一部ガ陸揚ゲセラレタルトキ亦同シ。斯ル場合ニ於テ積荷ヲ陸揚ゲスル爲メニ入津シタルトキハ備船者ハ港ノ諸係リヲモ負擔スベシ (Hafenkosten = port charges = 港ノ諸係リ)。

次ニ獨逸ノ商法ノ著書ニ依リ此第六三九條ノ註釋ヲ掲グ (Schäfers "Seerecht" p. 489)。

「運送契約ノ解除ノ場合ニ於ケル陸揚及港ノ諸係リノ負擔者ハ次ノ如シ、尤モ共同海損トシテ費用ガ分擔セラル、コトハ此ノ第六三九條ノ規定ニヨリテ妨ゲラル、コトナシ。

(一) 陸揚費用ハ原則トシテ第五九三條ニ從フベク疑アルトキハ運送人ハ積卸シノ費用 (Ausladung) ヲ負擔ス其他ノ陸揚費用ハ備船者ノ負擔トス。

例外——備船者ガ全部ノ陸揚費用ヲ負擔スル場合次ノ如シ。

(イ) 事變ガ積荷ノミニ起リタル場合。

(ロ) 第六三六條ノ場合ニ於テ積荷ノ一部ガ陸揚ゲセラレタル場合。

(二) 港ノ諸係リ。

原則ハ第六二一條ノ第二項ニ從ヒ運送人ハ港ノ諸費用ヲ負擔ス。

例外——前ノイ及ロノ場合ニ於テハ港ノ費用ハ陸揚ケノ爲メニ入津シタルトキハ備船者之レヲ負擔ス
シヤプス著書ノ註釋ハ以上ノ如シ。次ニ參考ノ爲メ獨商第五九三條及第六二一條ノ規定ヲ掲グベシ。

獨商第五九三條

當事者間ニ反對ノ合意ナキカ又陸揚港ニ於テ準據スベキ規則ナク又地方的、慣習モナキトキハ船内ヨリ積卸ス費用ハ船主ノ負擔タルベキモ其他總ベテノ陸揚費用ハ積荷ノ荷受人ノ負擔タルベシ。

獨商第六二一條

豫メ合意シタル場合ノ外ハ運賃ノ上ニ更ラニ「ブライメージ」、其他類似ノモノヲ請求スルコトヲ得ズ。

通常及非常ノ航海費用例ヘバ水先料、港税、燈臺税、曳船料、檢疫費、氷ヲ開キ船舶ノ通路ヲ作ル費用其他ハ反對ノ合意アリシトキノ外ハ船主ノミノ負擔トス。運送契約中ニ特ニ船主ガ斯ル費用ヲ贖スベキ行爲ヲ爲スベキ義務アル旨ヲ定メザリシ場合ニ於テモ亦然リ。

注意。獨商法第五九三條及第六二一條ハ費用負擔者ニ關スル原則ナリ必ズシモ避難ノ場合ニ限ラズ適用サルベキモノナリ、猶費用ニ關スル荷主ノ義務ニ付 Carver's "Carriage by Sea" § 296 ヲ視ルベシ。

第二節 獨船避難港入航ニ因リ共同海損成立

シ得ベキヤ

第一共同海損ノ成否ヲ決定スベキ法規ノ適用ニ關シテハ船券(北獨ロイド會社一六條漢米會社一六條リクマース一四條)ノ約款ニ依レバ共同海損ハ一八九〇年ノ「ヨーク・アントワープ」規定ニ準據シテ精算サルベシ云々トアルガ故ニ先ヅ Y.A. ヲ適用スベキモノナリ(ワイ、エー、アル、ニ漏レタル規定ニ付テハ航海終了)。

「ワイ、エー、アル」ノ適條ハ蓋シ第十條(a)項ナルベシ曰ク避難港ヘノ入航ガ船貨共同安全(Common safety)ヲ目的トセル場合ニハ初メテ共同海損成立シ得ベク共同安全ヲ目的トセザレバ共同海損ハ成立シ能ハズトセリ。

共同安全ヲ目的トスルニハ共同危険存在セザルベカラズ本問題ノ場合ニ於テ果シテ共同危険存在シタルヤヲ決定スルコトハ容易ニアラズ按ズルニ獨逸國ニ於テ獨逸船主ノ選任シタル精算人が共同安全ヲ目的トセル離路遲滯ナリト認メテ共同海損トシテ精算シタル場合ニ於テ日本ノ荷主ガ共同危険ノ存在ヲ否認シ共同安全ノ目的ニアラザルコトヲ主張セントスルモ充分ノ證明ヲ舉グルコトハ困難ナルベキカ。

今少シク其理由ヲ説明センニ先ヅ試ニ本問題ニ於ケル航海中ノ獨船ノ國際法上ノ位置ヲ觀ルニ國際法上敵商船ハ拿捕セラルベキモノナレバ(本邦海戰法規第二四條)此等ノ獨商船ハ英國軍艦ノタメニ拿捕セラルベキ危険アリ而シテ其危険ノ程度ニ付テハ一九〇七年ノ開戰ノ際ニ於ケル敵商船ノ取扱ニ關スル海牙協約第三條ヲ參考セザルベカラズ曰ク「開戰前ニ於テ最後ノ發航港ヲ出帆シ海上ニテ遭遇セル際開戰ノ事實ヲ知ラザリシ敵國商船ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ズ此等ノ商船ハ戰爭終了後賠償ナクシテ之ヲ返還スルノ義務ヲ負ヒテ之ヲ抑留シ又ハ賠償ヲ拂ヒテ之ヲ徵發シ或ハ破壊スルコトヲ得ルモノトス但船内ノ人並ニ船内ノ

書類ノ安全ハ保證セラルベシ。

「一旦自國ノ港又ハ中立港ニ入航シタル後ノ船舶ハ海戰ノ法規及慣習ニ準據シテ處分サルベシ」トアリ。

此ノ規定ニ依レバ本問題ノ場合ノ獨船ガ離路ノ決意ヲ爲シタルハ航海ノ途中ニ於テ開戰ノ事實ヲ知リタルガタメナルベク國際法上ニ於テハ開戰ノ事實ヲ知レル以後ハ拿捕沒收ノ危險ヲ免ガレザルベシ尤モ本問題ノ獨船ハ開戰前ニ出帆シタルモノナルガ故ニ不幸ニシテ敵艦ニ遭遇スルコトアルモ開戰事實不知ヲ口實トシテ無事航海ヲ繼續スルカ少クトモ無償沒收セラル、コトヲ免ガル、ノ途ハ全ク開ケヲラザルニアラザルガ如シ然ルニ英國ハ八月八日附ニテ此ノ一九〇七年ノ海牙協約ヲ守ラザル旨ノ勅令ヲ發布セリ(英國ハ獨國ガ海牙協約ヲ守ルコトヲ條件トシテ自國モ之レヲ守ラント考ヘ獨國ノ意向ヲ知ラント企テ倫敦駐在合衆國大使ヲ通ジテ獨國政府ニ懸合ヒタルモ通信不自由ノタメニ兩國ノ意思疏通スルニ至ラズ遂ニ海牙協約ハ行ハレズ開戰ノ時ニ兩國ニ碇泊セル又ハ開戰ノ時ニ航海中ノ敵商船ハ相互ニ之ヲ沒收スルコトニ決定シタルガ如シ)。

事情如此ナレバ獨國ノ商船ハ當時國際法上ニ於テ拿捕ノ危險アリシモノト云フベシ。

然レドモ此等英獨二國間ノ交渉ノ如キハ當時航海中ニアリタル船長ノ固ヨリ關知シ能ハザリシ所ナリ船長ハ事實英國軍艦ガ拿捕沒收或ハ擧沈ノ手段ヲ敢テスベキコトヲ信ジテ離路ノ方針ヲ採リタルモノト推定スルノ外ナカルベシ獨商船ノ危險ハ以上述べタル所ノ如シ。

次ニ獨船ノ載貨中本邦人ノ船積ニカ、ルモノニ就テ考フルニ當時日本ハ中立國ナリシガ故ニ其本邦人ニ屬スル貨物ナル事ノ容易ニ證明シ得ラル、貨物ハ（海戰法規一九條二〇條二一條倫敦宣言五九條）一八五六年ノ巴里宣言第三則ニヨリテ戰時禁制品ノ外ハ自由ナルヲ原則トスルガ故ニ（第三則ニ曰ク敵國ノ旗章ヲ掲グル船舶ニ搭載セル局外中立國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外之ヲ拿捕スベカラザルコト）拿捕ノ危險ニ臨メルモノニアラザルガ如ク見ユルモ然レドモ敵船内ノ中立貨ノ安全ハ絶對的ナラズ次ノ如キ制限アルモノト知ラザルベカラズ即拿捕物ノ沒收ハ審檢所ノ檢定ヲ待テ初メテ確定スベキモノナレドモ或場合ニハ洋

上ニ於テ審檢所ノ檢定前ニ破壞セラル、コトアリ元來檢定前ノ敵船ノ破壞ニ關シテハ未ダ國際法上ニ規定ナシト云フ(立博士戰時國際法三三七頁本邦海戰法規ニヨレバ其第二章拿捕シタル敵船及其載貨ノ破壞)部ニ於テ次ノ規定アリ(一二二條)拿捕シタル敵船ヲ帝國港ニ送致スルガ爲メ帝國軍艦ノ安全又ハ作戰行動ノ成效ヲ害スルト認ムル場合ニ於テハ之ヲ破壞スルコトヲ得トアリ而シテ斯ル破壞ハ實例ニ乏シカラズト云フ。

註一 拿捕者ハ不得已場合ニハ敵船ト共ニ中立貨ヲ擊沈スルモ貨主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ガルベシ普佛戰役ノ際ニ獨國ノ二商船 *Indwisch* 號及ビ *Vorwärts* 號ハ其搭載セル英國ノ中立貨ト共ニ佛艦ノタメニ擊沈セラレタリ而シテ英國ノ貨主ハ損害賠償ヲ佛國ニ訴ヘタルニ佛國ノ捕獲審檢所ガ一八七二年ニ本件ニ付與ヘタル判決ニヨレバ佛艦ハ當時多數ノ捕虜ヲ艦内ニ收容シタリタレバ其艦員ノ一部ヲ割イテ本船ノ续航ニ充ツルコト能ハザルノ事情アリシヲ以テ擊沈ハ作戰行爲上必要ナリシナリ中立貨主ハ損害ヲ要償スベキ途ナシト(L. A. Atherton Jones, *Commerce in War*, 1907, p. 298)

故ニ本問題ノ場合ニ於テ其敵商船ガ拿捕セラレタリトシテ中立載貨ノ安不安ニ付テハ一方ニ於テ其敵商船ノ航海セル海洋ノ地理上ノ地位或ハ當時ニ於テ拿捕シタリトセバ作戰行動上之ヲ擊沈スベキ事情アリシヤヲ考ヘザルベカラズ又他方ニ於テ日本人ノ積出シタル貨物ニテモ其仕向港ガ敵國ナルトキハ中立性ヲ

容易ニ證明スルコトヲ得タリシヤ否ヤ等ヲモ參考セザルベカラズ。

試ニ注意深キ船長ノ地位ニ立チテ當時ノ狀態ヲ追想センカ船長ノ離路避難ノ行爲ハ共同保存ノ精神ヨリ出デタル適當ノ處置ナルコトヲ信ゼザルベカラズ當時航海中ノ商船ガ殆ンド期セズシテ悉ク同一ノ決心ヲ爲シテ避難ノ方針ヲ採リタルヲ見テモ之ヲ推測スルコトヲ得ベシ。

按ズルニ「ワイ、エー、アル」ニ要求スル所ノ共通ノ危險ノ存在ナルモノハ「英國主義」ハ稍趣ヲ異ニスルガ如シ「必ズシモ敵艦ガ目前ニ横ハレルノ事實ヲ云フニアラザルベシ」果シテ船長ガ避難行爲ヲ採ラザリシナラバ必ズ拿捕擊沈ノ運命ニ遭遇スベカリシコトヲ必要トセザルナリ「英國」ニ於テモ共同海損ニ關スル一般ノ主義トシテハ船長ノ正當ナル理解力ニヨリテ採リタル手段ヲ是認スルモノ、如シ「保存」ヲ目的トシテ爲サレタル行爲ト保存ノ事實トノ間ノ因果ノ關係ノ存在ヲ以テ共同海損ノ要素ヲ作スモノト假定セバ別問題ナルベキモ「本邦、佛、白、伊、蘭、土、西、澳、匈」諸國ハ因果存在主義ヲ取レルガ故ニ此等ノ諸國ニテ航海ガ終了シタル場合ハ單ニ船長ノ處置ノ適當ナリシ事ノミニテハ共同海損ハ成立セザルベシ「因果關係不問

主義ノ諸國例ハ米國ノ領地ニテ航海ガ終了シタル場合ニ於テ船長ガ正當ト信ジテ採リタル決心ニヨリテ判斷セザルベカラズ拿捕ノ危險ガ根據ナキ憶想ニ出デタルニアラズシテ現實ニ起リ得ベカリシモノナルコトノ推測シ得ラル、以上ハ船長ノ考ヘハ正當ニシテ離路ハ正當ノ處置ナリト判定スルノ外ナカルベシ蓋シ今回ノ離路ハカルバー氏ノ所謂不當ナル恐怖ノ念ニ襲ハレテ (unreasonable degree of apprehension) 爲シタルモノト見ルベキニアラザルベシ(同氏著海上運送法八二節右著書ニ依レバ船舶ガ其儘航海ヲ繼續スレバ船貨共同ノ安全ヲ害スベキ程度ノ損傷ヲ被ムリヲリテ之ヲ修繕スルタメニ行フ所ノ離路ハ共同海損行爲ナリ又未ダ船舶ガ損傷ヲ被ムリヲラズ修繕以外ノ目的ノタメニ行ハル、所ノ離路例ヘバ暴風ノ襲來敵軍ノ拿捕或ハ非常ニシテ且危險ナル乗組員又ハ糧食ノ缺乏ヲ補充スル等ノ目的ヲ以テ共同ノ危險ヲ避クルタメニ行ハル、離路モ亦等シク共同海損行爲ナリ云々(四〇三節トアリ。

然ルニ拿捕ノ危險ガ如何ナル程度ニ達シタルトキニ於テ離路避難ノ行爲ガ正當トサル、ヤ又其行爲ガ共同海損トシテ認メラル、ヤニ付キ英國ニテハ稍嚴格

ナル解釋法ヲ採レルモノ、如シ英國ニ於テハ拿捕ノ危險ハ現實 (real) ニシテ且接
迫 (immediate) ナラザル可ラズ實際拿捕セラルベキ危險ヲ免ガル、(risk of actual seizure)
場合ニ限ルベシ否ラザレバ離路遲滯ハ不正當ニシテ共同海損行爲タラズトシ而
シテ船主ハ不當ナル離路遲滯トシテ荷主ニ向テ責任アルモノトセルガ如シ (Car-
ver:—S. 82, S. 287, S. 291 etc.) 思フニ英國ニテハ戰時危險ヲ免ガル、タメニ行ハル、
離路ニ關スル船主ノ責任ヲ(荷主ニ對スル)餘リニ過重ニセルノ誹ナキヤ又共同海
損ヲ成立セシムルニ付テモ同國ニテハ餘リニ嚴格ニ解釋シラルノ憾ナキヤ少シ
ク其理由ヲ述ベン。

航海ノ安全ヲ圖ルタメニ英國ノ「アドミラルチー」ハ船舶現時政府保險ヲ附シア
ル船舶ニ對シテ航海ノ通路 (route) 及航法 (navigation) ニ關シ必要ナル指圖ヲ與ヘツ
ツアリ船主ハ之レニ從フノ義務アルモノトセリ政府ノ命令ニ從ヒ安全ノ航法ヲ
採ルコトハ船主ノ義務ナルト同時ニ又權利ナリト解釋シテ可ナルガ如シ然ルニ
英國ニテハ傭船契約書又ハ船券ニ於テ船貨ノ安全ノタメニ「アドミラルチー」ノ命
令ニ依リ離路スルコトノ自由ヲ留保スベキ約款ヲ挿入スルノ必要アリトシ政府

ハ斯種ノ約款ヲ特ニ制定セリ (War risk deviation clause) 又之ノ次ノ如シ “If and so long as the ship is insured against war risks with a war risks' insurance association, under or in connection with a war risks' insurance scheme of His Majesty's Government, the ship, in addition to any liberties expressed or implied in this bill of lading, shall have the liberty to comply with any orders or directions as to departure, arrival, routes, ports of call, stoppage or otherwise however given by His Majesty's Government or any department thereof, or any person acting or purporting to act with the authority of His Majesty, or His Majesty's Government, or of any department thereof, or by any Committee or person having, under the terms of the war risks' insurance on the ship, the right to give such orders or directions, and nothing done or not done by reason of any such orders or directions shall be deemed a deviation.”)

然ルニ英國ノ週刊雜誌「フエヤブレ」(一六三六號)ニ依レバ何レノ傭船者モ自己ノ積荷ノ運送ニ付キ斯ル簡單ニシテ必要ナル約款ヲ運送契約書中ニ挿入スルコトヲ拒ミ政府ノ目的ハ水泡ニ歸シツ、アルノ觀ヲ呈セルハ實ニ遺憾ナリ云々ノ記事アリ猶同雜誌(一六三二號)ニ依レバ戰時危險ニ對スル相互保險組合ハ昨年八月五日附ニテ斯ル避難ニ因リテ船主ガ荷主ニ向テ負フベキ責任ヲ擔保スベキ旨ヲ公告セリト云フ(註一)

註一 其公告ノ一節ハ次ノ如シ “The War Risks Clubs will indemnify their members against their liability to owners of cargo arising from diverting steamers reasonably to avoid capture. Owners may look to Government for their freight if the Government retains the cargo in this country instead of allowing it to be carried to a foreign destination.”

却說如此重大ナル責任ヲ船主ニ(積荷主ニ對シテ)負ハシムルコトハ條理ニ反スルモノニシテ歐洲大陸及本邦ノ商法ニ於テハ船主ハ斯ル離路ニ對シテ當然責任ナカルベシ固ヨリ積荷ニ比スレバ船舶ノ危險戰時禁制品ハ別トシテハ大ナルベキモ既ニ述ベタルガ如ク積荷ト雖モ(敵船内ノ敵貨ハ拿捕セラルベシ中立貨ト雖モ敵船内ニテハ危險アリ)全ク自由ナルモノト確定セルニアラズ(註二)

註二 英軍ニ拿捕サレタル獨船積ミ英貨ノ處分ニ關スル英國商人ノ歎願書ヲ見ルモ其ノ貨物ノ危險明ナリ「フエヤブレー」一六三五號參照彼ノ普佛戰爭ノ際ニ起リタル獨船 Teutonia 號事件ニ於テハ英國ニ於テモ船主ガ斯ル場合ニ離路シ得ベキコトヲ認ムルガ如シ。

又費用ニ付テモ共同ニ分擔スベキコトハ當然ナルヤシ(Carver's 206 參考ノコト)。

又危險ノ共通ハ共同海損ノ要素トシテ固ヨリ必要ナレドモ其危險ノ程度ガ秋毫ノ差ヲ餘サズ各ノ「インテレスト」ノ上ニ同等ニ及ビタルコトハ要求スルモ可能ナルガ如シ例ヘバ積荷ノ如キ其ノ種類ニ因リ沈没ノ場合ニ海水ノ爲メニ被ムルベキ損傷ノ程度ニ差異アルベキモ沈没ヲ防グタメニ行ハル、共同海損行爲ニ

對シテハ一樣ニ分擔スルニアラズヤ或ハ又船貨複雑救助ノ場合ニ於テ實現スルガ如ク擱坐灣内ノ淺洲上ニセル船舶ハ必ズシモ危險ニアラズトスルモ濡レヲ甚シク厭フベキ性質ノ積荷ニ取リテハ全滅ヲ免ガレザルノ狀態ニ臨メルコトアリ而カモ其ノ救助作業ノ費用ハ共同ニ分擔スルニアラズヤ。

本年二月末ニ本邦外務省ガ商業會議所ニ與ヘタル通牒ニヨレバ獨船プリンセス、アリス號ノ載貨ニ對シテハ積荷主ハ單ニ移送ノ費用ノミヲ支拂ヒタルノミニテ強制的ニ引渡ヲ受ケタル由ナルモコレハ強力ニ依ルモノニシテ本問題ノ參考トシテ價值少カルベシ又昨年十一月十三日ノ英國ロイド保險協會ノ「シツピングガゼット」ニ載セタル伊太利チーブルス港ニ避難セル獨船「レムニヤ」號事件ノ判決ニヨレバ (Benson v. the Captain and Owners of the German Steamer Rhennia) 避難港滞在ノ費用ハ悉ク船主ノ負擔タルベシ又積荷ノ避難港ノ諸費用ハ船主ノ負擔ニ屬スルモノナレバ船主ハ共同海損供託金ヲ受ケズシテ積荷ヲ荷主ニ引渡スベシト決定セラレタリ此判決ノ如キモ積荷ハ全ク拿捕ノ危險ナク避難ハ全ク船舶ノ安全ノタメニ行ハレタルモノナリトノ前提ニ基ケルモノナルベキモ斯ル解釋ハ穩當ニア

ラザルベシ。(註一)

註一 右判決文左ノ如シ “The captain and owners are ordered to deliver up the freight to the freighter without any indemnification for general average expenses while at Naples. It is further decided that freight is due only for distance run not the whole freight; that freight is to be paid only for cargo delivered in good order; that expenses of landing and shifting cargo are payable by the shipowner.”

共同海損ノ準據法ハ「ヨーク・アントワープ」規定ナルコト及同規定ニ漏レタル點ニ付キテハ航海終了地ノ法律ヲ適用スベキモノナルコトハ以上述べタル所ノ如シ然レドモ參考ノタメニ本件ニ關スル獨逸商法ノ規定ヲ述ブベシ。

獨商ハ海上運送ノ部ニ於テ本件ニ該當スル事件ヲ規定セリ(六三五條)尤モ獨逸商法ノ海上運送ニ關スル規定ハ船荷證券第十九條ニヨリ運送契約ノ問題ニ適用セラルベキモノナレドモ船券ニハ共同海損ニ付獨商法ヲ適用スベキ規定ヲ存セザルガ故ニ獨商六三五條ノ規定ヲ「ワイ・エー・アル」ノ規定ニ代ヘテ用フルコトハ許サレザルベシ。

獨商六三五條ニ曰ク船舶ガ貨物ヲ船積シタル後發航前船積港ニ於テ或ハ發航後中間港又ハ避難港ニ於テ第六二九條ニ定メタル危險ノ或モノ、タメニ(註二)滯

在スルトキハ斯ル滞在ノ費用ハ(共同海損ノ條件ガ存セサル場合ニ於テモ)共同海損ノ法則ニ準據シテ船舶積荷運賃ノ上ニ分擔サルベシ但運送契約ガ其危險ニ因リ解除サレタルト又繼續シテ履行サレタルトヲ問フコトナシ滞在ノ費用ハ第七〇六條第四項第二號ニ列記スルモノヲ含ムベシ。(註一)

註一 六二九條ニ掲ゲタル危險トハ船舶ガ御用船トシテ徵發セラレタルトキ仕向港ガ封鎖セラレタルトキ開戦ニ因リ船貨ノ一者又ハ兩者ガ拿捕セラル、危險アルトキ等ヲ謂フナリ。

註二 七〇六條ハ共同海損ヲ例示セル條文ニシテ其第四項第二號ハ船貨ニ共通セル接迫ノ危險ヲ避クルタメニ行ハル、避難港ノ入航及出航ノ費用滞在中ニ原因スル船舶自身ノ費用滞在中ノ乗組員ノ給食糧乗組員ガ船内ニ滞在中ニ能ハザル事情アルトキハ其間ノ陸上ノ宿泊料ハ共同海損タルベシ猶又避難港ヘ入航シタル原因ノ結果トシテ積荷ヲ陸揚スルノ必要アルトキハ陸揚及再積込ノ費用ハ再積込ミ得ベキ時マデノ倉敷料ト共ニ之ヲ共同海損トスベシトアリ。

而シテ本條ノ規定ニ關スル Schaps:—“Seerecht” 中ノ註釋ヲ見レバ左ノ如シ。

一、船長ノ過失ニ因リ避難シタル場合ニハ適用無シ。

二、船主ハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得ズ(日本商法五九四條ニ相當ノ報酬ノ語アリ之レト同ジ)。

三、契約ガ解除サレタルトキハ積荷ガ積卸サレタルマデノ間ノ船舶ノ滞在費用ノミガ分擔サルベシ。

四、分擔サルベキモノハ滯在ノ費用ニ限ルベシ船舶ガ事變ニ因リテ受ケタル損害例之避難港ニ於テ暴風ニ因リ受ケタル損害ハ分擔サレズ。

五、共同海損ノ條件ガ存セザルトキニ於テモト云フコトハ積極的ノ損害ガ生ゼザルトキニテモ又ハ任意ノ犠牲ガ缺ケタルモ又ハ共同ノ危險無クトモトノ意ナリ云々。

果シテ共同海損成立スルモノト假定シ其共同海損タルヲ得ベキ費用及損害ノ範圍如何。

「ワイ、エー、アル」第十條及第十一條ニ於テ共同海損タルコトヲ得ベキ諸費用ヲ規定セリ本件ガ共同海損トナル場合ニ於テハ他ノ一般ノ避難ノ場合ト同ジク右ノ二箇條ニ準據シテ精算サルベキモノナリ即避難ニ直接原因セル必要ナル費用ハ共同海損タルコトヲ得ベシ航海ガ中絶シタルトキハ其ノ中絶シタルマデノ費用ヲ共同海損トスベシ運送契約ガ代船ニヨリテ履行セラレタルトキハ所謂代用費(Substitute expense)ノ法則ニ基キ精算サルベキガ如ク見ユルモ修繕ヲ目的トセルモノニアラザルガ故ニ「ワイ、エー、アル」第十條(D)項ノ代用費ノ問題ヲ生ゼズ從テ移送

ノ費用(forwarding charges)ハ共同海損トシテ分擔サル、コトナカルベシ。

共同海損タルコトヲ得ベキ損害ニ付テハ「ワイ、エー、アル」第二條ノ支配ヲ受クベキモノナリ。

避難ノ行爲ト直接自然ノ結果トシテ生ジタル損害ハ共同海損タルベシ例バ強行荷役ノ(其ノ荷役ノ費用ガ共同海損ナルトキハ)損害ハ共同海損タルベシ然レドモ避難行爲ノ直接自然ノ結果ニアラザル損害ハ共同海損ニアラザルベシ例バ避難港滯在中暴風雨ニ因ル船舶ノ損害或ハ積荷ガ在庫中火災ニ罹リタル損害ノ如キハ共同海損ニアラザルベシ積荷自身ノ固有ノ性質ニ因リ在庫中ノ積荷ガ變質スルモ共同海損ニアラザルベシ強行荷役ノ結果トシテ生ジタル損害ナレバ共同海損タルベシ又入出航ノ際ノ船舶ノ座礁モ共同海損ニアラザルベシ蓋シ是等ハ共同海損行爲(即入出航ノ行爲)ノ直接必然ノ結果ニアラザレバナリ。

蓋シ費用ガ Freight タルベキ範圍ニ付テハ Y. A. R. ト獨逸商法(即 G. S.) トノ間ニ格別ノ差異ナキガ如シ。(未完)